

目指す学校像	学校・家庭・地域のコミュニケーションをもとに、児童一人ひとりの学力や体力を向上させ豊かな心を育むことができる学校
--------	--

重点目標	1 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実と全国学力・学習状況調査に係る無回答率の改善 2 児童の心のサポート体制の充実 3 安全で快適な教育環境の充実 4 Well-beingの実現に必要な教職員の指導力の育成 5 地域、学校運営協議会と連携した課題の共有・解決
------	--

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学校自己評価							学校運営協議会による評価	
年度目標							実施日令和8年2月13日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等
1	「個別最適な学び」の中の指導の個別化に取り組んでいる。共通の課題に対して児童が学習形態を選んで取り組む学習では、一人で取り組んだり、複数で取り組んだりなど児童は意欲的に取り組んでいる。 教員は一人ひとりの児童の学習の進捗状況を把握するようにしているが、一人ひとりの児童に合った支援方は今後とも課題である。今年度は個別最適な学びの中の「学習の個性化」に取り組む予定である。 昨年度は少し改善されたが、全国学力・学習状況調査に係る無回答率の改善が望まれる。	<ul style="list-style-type: none"> 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実 全国学力・学習状況調査の教育データの活用による学力向上 	<ul style="list-style-type: none"> 学校課題研修全体会を通して、個別最適な学びの中の「学習の個性化」について研修する機会を設ける。 学校課題研修で年間3本の授業研究会を実施し、協議会での成果と課題を追究し日々の授業に生かす。 全国学力・学習状況調査の児童への事前指導及び振り返りの実施 全国学力・学習状況調査の結果分析 	<ul style="list-style-type: none"> 学校評価に関わる教職員アンケートについて「確かな学力の向上が図られている」と回答する教職員の割合が77%、「教職員は教え方を工夫してわかりやすい授業をしている」と回答する保護者の割合が91%となったか。 令和6年度と比較して無答率を同等とする。 全国学力・学習状況調査の全国平均を上回る。 	<ul style="list-style-type: none"> 「確かな学力の向上が図られている」と回答した教職員の割合は93%、「教職員は教え方を工夫してわかりやすい授業をしている」と回答する保護者の割合は93%であった。児童が自ら課題を選択し、学習方法も自分で決めるなどの主体的な学びを実施したことにも起因すると思われる。 研究授業については、年間4本の授業研究会を実施した。 無解答率は、昨年度に比べて数値は下がった。 理科については、全国の平均を上回った。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 主体的な学びには基礎学力の向上が不可欠である。授業の中で教科担当が児童に学習支援できるよう支援方向についても研究していく。 研究授業で学んだことを研究授業者だけでなく、教員全員に活かすために研究授業の振り返りに時間を費やす。 児童が興味をもって基礎学力定着に取り組めるようなタブレットを使用した教材を研修部会で洗い出す。 	<ul style="list-style-type: none"> 学びを共有して、同じ方向を向いて取り組むことは非常に大切なことだと思いますので、ぜひ、実行していただけたらと思います。
2	「心と生活のアンケート」を踏まえた児童との面談では、児童に寄り添った支援を心がけている。教育相談日、個人面談等での保護者との面談を通して、必要に応じてSCやSSWに相談するよう声かけをしている。 また、令和6年度より、Sola る一むを設置している。利用者は一定数存在していて、教室には入れないが、学ぶ意欲がある児童に学びを提供している。保護者等のボランティアの配置等は今後の課題である。	<ul style="list-style-type: none"> いじめに係る組織的な対応の実施 Sola る一むの適切な運営 	<ul style="list-style-type: none"> いじめは原則として、複数で対応する いじめ対策委員会での記録と全職員の共通理解を図る。 「嫌な気持ち、悲しい気持ちで帰らない」を呼びかけ、いじめの早期発見、解決を図る。 Sola る一むの運営方針を定め、策定計画を発行する。 Sola る一むボランティアの募集について検討し、募集を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校評価に関わる保護者アンケートにおいて、『お子さんに「いじめ」はなく、友達と仲よく過ごしている』と回答する保護者の割合が93%以上となったか。 いじめはすべて対応したか。年度をまたぐ案件は「見守り中」になったか。 Sola る一むの策定計画を発行したか。 Sola る一むのボランティア募集を行ったか。 	<ul style="list-style-type: none"> 「学校は子どもたちの訴えに対し、真摯に対応している」(アンケートの文面変更)の割合は92%であった。 積極的にいじめを認知し、すべて組織的に対応した。いじめ対策委員会もすべてのいじめに対し、開催した。 Sola る一むの運営方針を発行し、Sola る一むの利用にあたって保護者との面談を実施し、保護者の理解の上での利用とした。 ボランティア募集の方針を変更し、Sola る一むを利用する児童の支援を教頭、SA、専科教員が時間の取れるときに行った。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 今後もいじめには、複数で組織的に、迅速に対応する。聴き取り、指導、支援の方法について職員研修、OJTなどの機会を使って、対応のスキルを高めていく。 次年度はSola る一むを利用する子どもたちの一人ひとりに即した支援方法を教育相談部会等で検討し、全校で共通理解して進めていく。 	<ul style="list-style-type: none"> いじめの発見を今後も早めに行えるようにお願いします。 登校班としてまとまった型が少し崩れているようにみえる。遅れる子どももいるので、まとまった型になるようお願いしたい。 初期対応の大切さをもう一度確認してほしい。報告、連絡、相談、確認の徹底を
3	校庭遊具等施設の点検は毎日実施している。備品購入については計画を立てて取り組んでいる。 黒板に映像を映し出すホワイトボードシートの全学級の設置を進めている途中である。児童が安全な環境で学校生活を送れるようさらに危機管理意識を高めて、校内の設備点検を今後も行う。 登下校のマナーやあいさつについては個人差がある。継続的な声かけが必要である。	<ul style="list-style-type: none"> 安全指導と安心安全な環境整備の提供 登下校のマナー、あいさつの向上 	<ul style="list-style-type: none"> 安全点検を月1回実施し、点検状況を管理職が把握し対応する。校庭の遊具は毎日点検する。 ホワイトボードシートの購入計画を立て、期限までに購入処理を行う。 通学班班長指導(学期に1回)、生活朝会の折に交通安全指導(学期に2回)、避難訓練(学期に1回)をそれぞれ実施する。 週に2回は児童の下校の見守り、地域まわりを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 校庭の遊具は毎日点検したか。 学校評価に関わる教職員並びに保護者アンケートについて「学校は環境整備の改善に努力している」と回答する教職員、保護者の割合がそれぞれ95%となったか。 地域の方々にすすんであいさつをしていると回答する児童の割合が93%となったか。 週に2回下校の見守り、地域まわりを行ったか。 	<ul style="list-style-type: none"> 「学校は環境整備の改善に努力している」と回答する教職員の割合は93%、保護者の割合は95%となった。改築、リフレッシュ工事が終了し校内の施設の充実が図られたことも起因すると思われる。 校庭の遊具は毎日点検し適切に管理した。 「地域の方々にすすんであいさつをしている」と回答する児童の割合は91%であった。 下校の見守り、地域まわりは、週に3日は管理職うちの誰かが行うことができた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 11月下旬より、校庭の落ち葉集め、校庭の清掃を子どもたちの有志が行っている。環境整備の大切さをこれからも児童に指導していく。 児童のあいさつについては、現状として個人差がある。あいさつの大切さ、与える影響について児童に粘り強く声かけをしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 子どもたちが自ら活動していることに関して先生方の丁寧なかかわりなどが大きく関係しているのではないかと思います。有志の子どもたちが増えていくことを期待します。
4	学校課題研修、法定研修、OJT、管理職による授業参観等を通して、教員の育成を図っている。 本校は経験の浅い教員が多く存在し、それらの教員の指導力の向上が課題である。	<ul style="list-style-type: none"> キャリアに合った教職員の指導力のスキルアップ 授業力、学級経営力の向上 	<ul style="list-style-type: none"> 人事評価シートに係る面談、研修プラットフォームの活用を通して、教職員の指導力向上の計画を立てる。 管理職による年間1回の授業参観を実施し、その後の個別指導を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校評価に関わる教職員アンケートにおいて、「ICTの活用や学校課題研修をとおして、指導法の工夫や改善が行われている」と回答する教職員の割合が95%以上となったか。 管理職による年間1回の授業参観を実施したか。 	<ul style="list-style-type: none"> 「ICTの活用や学校課題研修をとおして指導法の工夫や改善が行われている」と回答する教職員の割合は100%であった。ICTの活用が児童の学習支援につながるよう今後も研究を深めていく。 授業参観を実施し、教科指導、学級経営について個別支援等の対応を行った。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 指導法の研修で学んだことを全職員が活かせるよう学年会等で振り返る機会を多くもつ。 経験の浅い教員については、管理職、教務主任によるOJTを実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> さまざまな子どもたちがいる中、しっかりと向き合い、そのなかで指導について向上を図っていただいています。
5	学校運営協議会、SSN、防犯ボランティア幹事会等の機会を使って、学校と地域の課題の共有等を行っている。地域と協働した子どもの規範意識の醸成、心のサポート体制の構築が課題である。	<ul style="list-style-type: none"> 保護者、地域のより一層の学校への協力 保護者、地域に対する適切な情報発信 	<ul style="list-style-type: none"> 学校の課題、学校を取り巻く地域の課題について、学校運営協議会で熟議を行う。 特に「児童生徒の心のサポート」について熟議を行う。 その日起こったことはその日のうちに保護者に連絡し、課題解決に向け保護者と連携する。 保護者、地域には可能な限り学校安心メールを活用して情報の発信を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校運営協議会の熟議のテーマである「児童生徒の心のサポート」についての熟議を行ったか。 学校自己評価における保護者アンケートで、「学校は保護者の方へ、親切・迅速・丁寧な対応している」と回答する保護者の割合が96%であった。 下校時刻の変更、学級閉鎖の連絡は今後も密に地域、保護者に行っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校の課題である不登校傾向のある児童の支援については、学校運営協議会で情報共有した結果、主任児童委員、民生児童委員との連携を進めることとなった。民生児童委員との連携は学期に3回の割合で実施している。 「学校は保護者の方へ、親切・迅速・丁寧な対応をしている」と回答する保護者の割合は96%であった。 下校時刻の変更、学級閉鎖の連絡は今後も密に地域、保護者に行っていく。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 地域、行政との連携により、学校外でしていただける支援について模索していく。 保護者、地域から信頼していただき、応援していただける学校でいられるよう今後も丁寧に情報提供をしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 今後も民生児童委員、主任児童委員と学校の課題について連携を深めていきたいです。 地域、保護者を交えての支援に積極的に取り組んでおり、引き続きその結果を見守るの必要性を感じます。